



# 町長の行政報告を お知らせします

八峰町9月議会定例会が6日から15日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

## 8月24日・25日の大雨 八峰町も農業被害や河川被害が

8月24日から25日にかけての大雨についてですが、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を東に進み北東北を横断しました。

本町でも24日午前11時頃から雨が降り出し、県の設置した雨量計で1時間に20ミリを超える雨量を計測するなど、河川の水位の上昇も見られ災害発生のおそれがあったことから、同日午後4時30分に災害対策連絡部を設置し、警戒にあたりました。

中央公園では、法面が崩れていたことから、立ち入り禁止の看板を設置したほか、八森地区の五輪台上段で、国道101号線とJR五能線の間の畑に水路の水があふれて流れ込んだため現地を確認、水路の下流域に民家があることから、水の流れを解消する応急措置等の対応を行いました。

翌日、午前7時から、被害状況確認のため町内を巡回し、午後2時に災害対策連絡部を解散しました。

なお、この度の大雨により、五輪台上段の畑で約6万1千円の農業被害があった他、夏井沢川2カ所所で約600万円の河川被害となる見込みです。この河川被害については、災害復旧に向けた関係予算を本議会に追加提案しました。

## 子育て世帯向け民間賃貸住宅 年内にも入居可能に他

次に、「子育て世帯向け民間賃貸住宅」についてですが、7月に町内の1事業者から2戸建設したいとの申請があり、内容を審査して補助決定したところですが、建設地は峰浜小学校にほど近い住宅地で、年内にも入居可能となる予定となっています。子育て世帯の町外流失を食い止めることを主目的としています。建設や不動産業などの「仕事づくり」にも繋がる事業です。引き続き参画する事業者が出てくることを期待しています。



次に、お話し移住ツアーについてですが、6月23日から2泊3日の日程で実施しました。参加者は8名で、茅葺き屋根葺き替えや東屋づくり、きりたんぼ鍋づくりなど田舎暮らしを体験しつつ、移住者交流会を通して移住前の不安を解消し、移住に繋げることを目的

## 歯科診療所訪問医療 通院が困難な高齢者等へ

に実施したところですが、本移住ツアー参加者においても1名が7月に移住をしています。お話し移住ツアーは平成28年3月から始め、これまで5回開催していますが、延べ42名から参加いただき、うち10名の移住に繋がっています。総合戦略の「社会減の抑制」のKPI達成のため、今後も引き続き実施します。

次に、歯科診療所訪問診療についてです。

町営歯科診療所も平成25年3月の再開以降、患者数も順調に推移しています。また、4月より歯科訪問診療を実施し、現在までに延べ6回利用いただいています。今後も、包括支援センター等関係機関を通して通院が困難な高齢者等へ訪問歯科診療をPRするなど利用促進に努めます。

## プレミアム付き商品券発行事業 区切りとなる10回目が終了

次に、「プレミアム付き商品券発行事業」についてです。

この事業は、低迷する消費需要を喚起し、個人消費の拡大によって地域商工業者等の売り上げ増加を図り、町の経済活性化につなげることを目的に、平成21年度から実施しています。

## 9月議会定例会に 提出した主な議案

- △物品の取得について  
菌床しいたけホダ培養棟コンテナの購入  
△平成29年度一般会計補正予算2億2,919万円を増額追加した主な歳出  
L G W A Nメールサーバー構築等に関する電子計算費  
大沢・塙地区の地デジ放送共聴施設改修補助金、ふれあい橋さわめ補修工事費、財政調整基金積立金  
△平成29年度各特別会計補正予算  
・八峰町国民健康保険事業勘定  
4,005万4千円を増額ほか7会計  
△平成28年度一般会計歳入歳出決算認定について  
△平成28年度各特別会計決算の認定について  
△八峰町沢目財産区管理委員の選任について  
現委員が任期満了を迎えるに当たり、引き続き選任することについて議会の同意を求めるもの  
△平成28年度決算に基づく財政の健全化判断比率及び資金不足比率の報告  
△平成29年度一般会計補正予算3,336千円を増額追加した主な歳出  
△公共土木施設に関する災害復旧費

10回目となる今回は、昨年同様20%のプレミアムが付いた額面6千円の商品券を、1冊5千円で1万セットを販売するとともに、購入限度額を、1人5冊まで2万5千円とし、お盆前から販売していますが、8月末現在でおよそ70%を売り上げています。

今回は、その他に、自治会事業で使用する場合に限り、特例として20冊、10万円までの購入を可能とし、運動会の賞品などの購入に活用されています。

なお、商品券の使用期限は平成30年2月7日までの6ヶ月間となっています。

今回で、区切りとなる10回を終了することから、事業主体である白神八峰商工会と、これまでの事業効果について調査・分析し、今後の地域活性化への取り組みに活かします。

## おがる八峰しいたけプロジェクト ホダ製造建屋等は順調な進捗

次に、未来づくり交付金事業について報告します。

おがる八峰しいたけプロジェクト事業で進めているホダ製造建屋や事務所棟、培養棟、栽培棟など、すべての建設工事は発注済みであり、現在のところ、年内の完成を目指して順調な進捗状況となっています。

各施設などで使用する物品については、現在精査・検討していますが、特に、日数を要する「菌床しいたけホダ培養

## 全国学力・学習状況調査 秋田県は今年度もトップクラス他

次に、全国学力・学習状況調査についてです。

10回目を迎えた今年度の結果について去る8月28日に公表され、秋田県は、今年度も小学校6年生、中学校3年生とも「トップクラス」の実績でした。

当町の状況は、小学校6年生については、各学校とも、国語・算数両教科のA問題（基本）、B問題（応用）とも、全国や秋田県の平均を超える良好な結果でした。

また、中学3年生についても、小学生同様に全国・秋田県の平均を各教科ともクリアし、良好な状況となっています。

学力調査の結果については、この結果に甘えることなくしっかり分析し、明らかにになった課題を授業の中で重点的に取り組み、指導方法を工夫して定着を図るなど、具体的な対策を積み重ねていきます。

また、同時に実施された児童・生徒に対するアンケート調査については、

これまで「家庭での復習」や、「学習時間の少なさ」が小・中学生とも共通した課題でしたが、今年度の調査では改善され、学校はもとより、教育委員会による保護者の皆様に対する家庭学習の重要性と習慣化への理解と協力を呼びかけた結果であると考えています。しかし、「新聞を読んでいますか」の質問では特に中学生が全国・秋田県の平均よりも低い状況にあります。

子ども達の「読解力」の低下や、文字活字離れが心配される中で、「生きた教材」である新聞を活用してより多くのことを学ぶことは有効であり、学校側ともよく相談しながら対策を講じていきたいと考えています。

次に八峰中学校で行っている地域未来塾についてです。

この事業は、国の「学校・家庭・地域連携総合事業」の一つで、学習支援が必要な中学生等に学習支援を行うことを目的として行うもので、町では昨年引き続き事業実施しています。全年を対象にして、7月から来年2月まで週2回程度、放課後1時間、学習支援員のついた補習授業を設け、3年生は94%、2年生は98%、1年生は100%の生徒がこの塾を利用しています。

なお、夏季及び冬季休業の期間については、従来から学校教育課で行っている学力フォローアップスクール事業で補習事業を組んでおり、ここでも多くの中学生が利用しています。